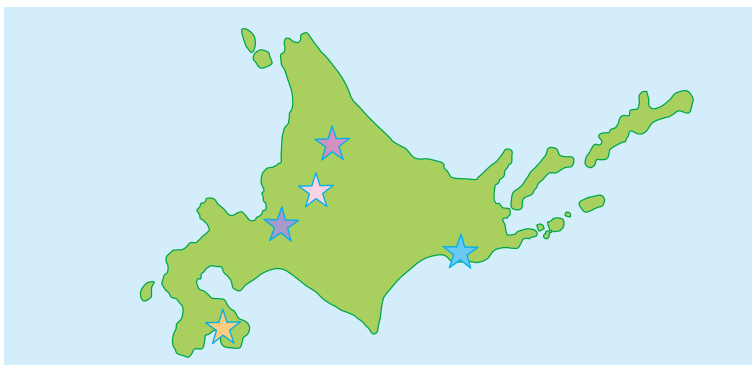
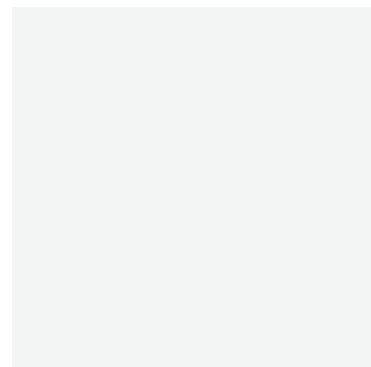
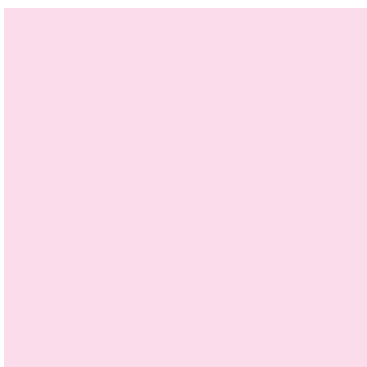
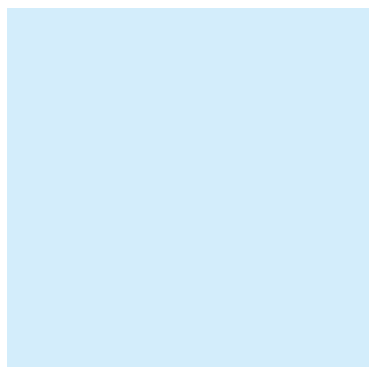
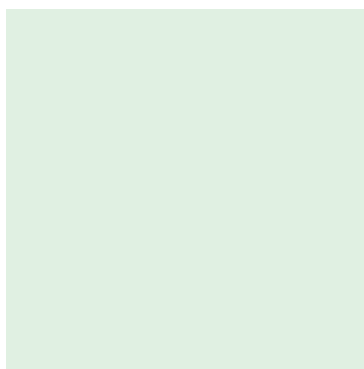


# 基金だより

Hokkaido University  
of Education  
Fund Report



第12号

## はじめに



北海道教育大学長  
蛇 穴 治 夫

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学では、教員をめざす、あるいは地域社会の様々な分野で活躍しようと勉学に励む学生を支援するために、平成18年12月に基金を創設し、募金活動を実施してまいりました。

この間、多くの企業・団体、同窓会、学生の保護者及び教職員をはじめとする、本学を思う様々な方々からご寄附を賜り、これまでに、延べ650名を超える学生に奨学金を授与するほか、経済的な理由により修学困難な学生に対する支援など、大変有意義に基金事業を展開することができました。

皆様から温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、現代はSociety5.0を迎えようとしており、社会の変化はますます加速しています。予測困難な時代を生きる子どもたちの教育に求められる内容も変化しています。グローバル化する社会を生き抜く能力の育成や、教科の枠組みを超えて理解し考え、そして判断する力などを子どもたちに身につけさせる必要性が高まっています。学校教育現場の教員はこのような変化に柔軟に対応しなくてはならず、本学の「教員養成課程」では、教員を教育に関する高度な専門職と捉え、しっかりとした基礎を土台に応用力を発揮できる教員を養成しています。

また、地域社会に目を向けると、人生100年時代の到来、少子高齢化や地方創生の実現など、諸課題が山積しています。本学の「国際地域学科」と「芸術・スポーツ文化学科」では、グローバルな視点をもって地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かで幸福な生活を提案できる人材を養成しています。

国立大学が法人化され、国からの運営費交付金の削減と中期計画の達成度や成果に基づく運営費交付金の再配分という仕組みにより、本学のような教員養成系単科大学にとっては、運営が大変厳しい時代となりましたが、教員養成や地域人材養成の北海道における中核として、今後も優秀な人材を輩出していく所存です。

本学は「教員と地域人材の養成を通じて、地域の成長・発展を牽引する大学」の実現に努めてまいりますので、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 目 次

1. 平成30年度事業報告 .....	2	5. 寄附者のご紹介 .....	9
2. 基金の収支状況 .....	2	企業、法人、団体等 .....	9
3. 育英事業奨学金受給者から .....	3	個人 .....	10
学部学生 .....	3	6. 大学の近況報告 .....	11
大学院生 .....	6	7. お知らせ .....	14
4. 奨学金授与者数 .....	8		

## 1

## 平成30年度事業報告

■平成30年度事業として以下のとおり実施しました。

## 育英事業

- ①優秀な大学院生（現職教員以外）への奨学金支給  
10名に対し、1人10万円 計100万円を支給
  - ②優秀な学部学生への奨学金支給  
15名に対し、1人10万円 計150万円を支給
- 合計 25名 250万円を支給

## 修学支援事業

- ①経済的理由により修学困難な学生に対する授業料減免  
1名に対し、後期分授業料の半額 計133,950円を免除
- ②経済的理由により修学困難な学生に対する奨学金給付  
10名に対し、1人10万円 計100万円を給付
- ③経済的理由により修学困難な学生の海外留学支援のための奨学金給付  
5名に対し、海外留学に係る渡航費用の一部補助として 計472,000円を給付

## 表彰事業

意欲的に学習や自己研鑽に励み、学業成績優秀な学生や課外活動等の成果が特に顕著な学生等を表彰  
学業成績優秀者16名、その他の表彰1名及び1団体を表彰（表彰状及び記念品を贈呈）

## キャンパス指定事業、附属学校（園）支援事業

函館校寄附講座の開催の支援、岩見沢校サッカー部の活動支援、附属札幌小学校の設備整備のほか、各校の修学環境整備、学生支援、教育支援、就職支援、学生活動支援等に要した経費を支出

## 2

## 基金の収支状況

■平成30年度のご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
修学支援事業	18,375,630	修学支援事業	1,605,950
その他の事業	23,527,984	その他の事業	21,282,934
育英事業等	513,338	育英事業等	2,734,128
キャンパス指定事業	20,344,646	キャンパス指定事業	16,094,716
附属学校（園）支援事業	2,670,000	附属学校（園）支援事業	2,454,090
		管理費（リーフレット、手数料等）	1,179,403
合 計	41,903,614	合 計	24,068,287
		差引収支額	17,835,327

■平成18年12月の基金創設時から、平成30年3月までのご寄附の状況、支出の状況は次のとおりです。

（単位：円）

収 入		支 出	
修学支援事業	23,322,130	修学支援事業	3,860,486
その他の事業	155,289,635	その他の事業	126,800,212
育英事業等	95,840,251	育英事業等	81,430,034
		現代的教育課題への研究支援事業	306,188
キャンパス指定事業	56,779,384	キャンパス指定事業	42,609,900
附属学校（園）支援事業	2,670,000	附属学校（園）支援事業	2,454,090
		管理費（リーフレット、手数料等）	2,226,999
合 計	178,611,765	合 計	132,887,697
		寄附金残額	45,724,068

## 学部学生

## ◆札幌校 教員養成課程 特別支援教育専攻 2年 渡部 純玲

この度は、北海道教育大学基金により奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの努力をこのような形で評価していただき、大変嬉しく思います。

念願だったこの大学に入学することが出来たその日から、日々の講義や、友人・子どもたちとの関わり全てを大切にしようと決め、精一杯取り組んできました。私が日々安心して学習できるのは、決して当たり前のことではなく、多くの方々の支えがあってこそなんだと実感しました。周囲の方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも妥協することなく全力で勉学に励んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。



## ◆札幌校 教員養成課程 学校教育専攻 3年 中村 早希

このたびは北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。奨学生として選んでいただき、大変嬉しく光栄に思っております。

このような奨学制度によるご支援をいただいたことは、学業に専念できる学生という立場や環境は私が感じていた以上に多くの方々の思いとつながりに支えられているということを実感し、自らの学業への姿勢を見つめ直す大切な機会となりました。学業をはじめ様々な活動に取り組み、皆様の温かいご支援に全力で応えられるよう邁進してまいります。本当にありがとうございました。

## ◆札幌校 教員養成課程 学校教育専攻 4年 石塚 日向子

この度は、育英事業奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。私は、「人の心」への興味から教育心理学分野への入学を決め、勉強をし、「人をどう理解していくのか？」を学んできました。最初は興味からスタートした心理学の勉強でしたが、実際に勉強していくと奥深く、知らない世界がたくさんあり、まだまだ興味は尽きません。これからも、「知らないこと」を知ろうとする探求心を忘れず、あせらず、たゆまず、おこたらず、努力を続けていきます。本当にありがとうございました。



## ◆旭川校 教員養成課程 数学教育専攻 2年 山本 侑生

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で評価していただき、大変嬉しく光栄に思うとともに、改めて多くの方々の支えのおかげで、日々勉学に勤しむことができていると感じております。

今後は、21世紀を生きる子供にとっての数学教育を模索しながら、さらに学びを深められるよう、精進して参ります。皆様への感謝の気持ちを忘れなるとともに、皆様の温かいご支援を重ねて御礼申し上げます。

## ◆旭川校 教員養成課程 国語教育専攻 3年 宮崎 万由有

「教育」は他者を育てることはもちろんですが、学ぶ者自身をも成長させる学問だと感じています。また、多くの子どもたち、ご指導して下さる先生方、仲間たち、私にとって多くの素敵な出会いをもたらしてくれました。今後も同じ夢を持つ仲間と切磋琢磨しながら学ぶことができる今の環境に、そして多くの方々に支えられていることへの感謝の気持ちを忘れずに一層努力していこうと思います。

最後になりますが、奨学金を授与していただき誠にありがとうございました。





◆旭川校 教員養成課程 数学教育専攻 4年 高清水 公星

この度は北海道教育大学基金より、奨学金を授与して頂き、誠にありがとうございます。奨学生に選んでいただいたことを、大変嬉しく光栄に思っております。

現在私は中学校数学科教諭を目指し、専門教養を中心に勉学に励んでおります。

今後は、奨学生の名に恥じないよう、また、ご支援して頂いた方々への感謝の気持ちを忘れずにより一層勉学に励んでいきます。重ねて、この度は誠にありがとうございました。

◆釧路校 教員養成課程 学校カリキュラム開発専攻 2年 長尾 笑麗奈

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。このような形で日々の努力が認められ、大変嬉しく、光栄に思います。

私は現在、教師になるために、英語を中心に勉学に励んでおります。今後も、実習やボランティアを通して子どもたちから沢山の学びを得ながら、より一層努力していきたいと思っております。

ご支援いただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進してまいります。本当にありがとうございました。



◆釧路校 教員養成課程 学校カリキュラム開発専攻 3年 横山 由香

この度は、北海道教育大学基金育英事業における奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。これまでの努力が評価されたことを大変嬉しく思います。

授与していただいた奨学金によって自身の研究活動の幅を広げることができました。特に、へき地校体験実習に踏み切ることについて悩んでいた私にとって、奨学金は大きな後押しとなりました。今後は、より一層の勉学に励みながら、悔いの残らない大学生活を過ごしていきたいと思っております。

ご支援いただいた皆様、この度は誠にありがとうございました。

◆釧路校 教員養成課程 学校カリキュラム開発専攻 4年 小山 知倫

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。本奨学金の授与は、これで3度目となります。在学中にこれほどまでに学業の成果が評価されたことは、生涯誇りになると考えております。

また、ご支援いただいております皆様には心より感謝申し上げますとともに、この大学で得られた学びを音楽科教員として生かし、学校現場で活躍することで応えたいと思っております。

今後とも、謙虚に学び続ける姿勢を忘れることなく、北海道の音楽教育に貢献することができるよう、より一層邁進していきます。



◆函館校 国際地域学科 地域協働専攻 2年 庄内 杏

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき誠にありがとうございます。また、寄付して下さった方々、支えて下さっているすべての方々に改めて感謝申し上げます。

日々積み重ねて来た努力をこのような形で評価していただいたことに大きな喜びを感じております。また奨学生となり、より一層身が引き締まり今まで以上に勉学に取り組む意欲にもつながりました。

今後も感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいと思っております。

◆函館校 国際地域学科 地域協働専攻 3年 平田 幹太

皆様のご協力・ご支援で成り立っているこの北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、本当に感謝しています。

私は、何事に関しても一番になるという心意気でこの大学生活を過ごしてきました。その生き方が認められた瞬間だと感じました。常に上を目指し、一番になるという姿勢を生涯貫き、立派な教員になれるよう日々努力します。私の日々の生活を支えてくれている母、父、祖母、妹、友人への感謝の気持ちを忘れずに、これからの大学生活を過ごしていこうと思います。

本当にありがとうございました。



◆函館校 国際地域学科 地域協働専攻 4年 野坂 実央

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。奨学生に選んでいただき、大変嬉しく光栄に思っております。

これもひとえに、学ぶことの楽しさを教えてくださった、指導教員の佐藤香織先生をはじめとする本学の先生方や、励まし支えてくれた友人達のおかげであります。

ご支援していただいた方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも目標に向かって、ひたむきな努力を重ねていきたいと思っております。

◆岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 音楽文化専攻 2年 藤内 海登

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、大変光栄に思っております。奨学金授与のお話をいただいた時は大変驚きましたが、入学してから1年間の自分の勉学の成果をこのような形で評価して頂けたことを誇りに思っております。

私は大学でピアノの演奏を中心に、音楽の専門的な学びを進めております。今後、様々な作曲家の作品を演奏していく上で求められる知識や技法をさらに深く探究するべく、日々の授業を大切に、謙虚に音楽の学びに向かってまいります。

この育英事業は、私が日々お世話になっている先生方をはじめ、たくさんの方のご寄付により成り立っていることを存じております。今後も、ご支援いただいている方々に恥じぬよう、日々勉学に精進いたします。この度は、誠にありがとうございました。



◆岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 芸術・スポーツビジネス専攻 3年 高橋 和泉

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より御礼申し上げます。このような制度があることを初めて知ったため、奨学金授与された際には大変驚きました。今回の奨学金を大学生活の一つの励みとし、より一層勉学に精進していきたいと思っております。この先、寄付していただいた皆様への感謝の気持ちを忘れずに努めていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

◆岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 4年 村部 瑠璃子

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。奨学金授与のお話を頂いた際には、身に余る評価を頂いたことに大変驚きましたが、これまでの日々の努力が認められたように感じ大変嬉しく思います。これもひとえに、ご支援とご指導を賜った全ての方々のお陰であり、心より感謝申し上げます。いただいた奨学金は、制作・研究費用に使わせていただきます。

様々な面で私を支えてくださる皆様に感謝の気持ちを忘れずに、今後もより一層精進してまいります。本当にありがとうございました。



◆教科教育専攻 英語教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 市澤 慧太郎

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、本当にありがとうございます。  
 このような温かいご支援をいただき、身が引き締まる思いでいっぱいです。奨学金授与者として、また北海道教育大学の学生として恥のないよう、残りの学生生活ではひたむきに研究活動に励み、そして今後の教員生活においても精一杯学び続け、北海道での教育に貢献できるよう努めます。本当にありがとうございました。



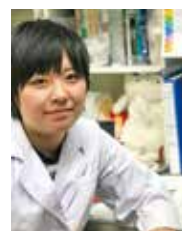
◆学校教育専攻 学校教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 沖野 峻志

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。  
 大学院での学びを評価されたことを大変うれしく思うとともに、今までご支援、ご教授をいただいたすべての方々に改めて心より御礼申し上げます。大学院で学んだ特別支援教育に関する知識を活かせるよう、自身が理想とする教員像に近づくため、今後も勉学と研究に励む所存でございます。本当にありがとうございました。

◆教科教育専攻 理科教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 神田 侑奈

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき誠にありがとうございました。多くの方々のご支援に深く感謝申し上げます。このような形で学業の成果を評価していただき、大変嬉しく光栄に思います。

授与していただいた奨学金は、図鑑・参考書の購入や教材作成のために大切に使用させていただきます。今後も自己研鑽を積み、理科の面白さを沢山の子どもたちに伝えられるよう尽力したいと考えております。



◆教科教育専攻 英語教育専修（札幌・岩見沢校） 2年 富樫 北斗

このたびは、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございます。これまでの取り組みをこのような形で評価していただきとても嬉しく思います。

これまで多くのご支援を頂いた方々への感謝の気持ちを忘れずに今後の学生生活を過ごしていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

◆教科教育専攻 数学教育専修（旭川校） 2年 石黒 雄佑

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、心より感謝申し上げます。  
 今回の授与を通して、改めて周りとのつながりが大切であることを認識し、日々、沢山の人に支えられて今の自分があることを再確認するよい機会になりました。本当にありがとうございます。

今後は、今まで通り数学を考える楽しさを忘れずに、さらに研究に専念したいと思います。その結果を何らかの形で教育に生かすことを約束し、今回の授与を次の世代に伝えられるよう努めてまいります。



◆教科教育専攻 数学教育専修（旭川校） 2年 吉田 聖司

この度は北海道教育大学基金より奨学金を授与して頂き、心より感謝申し上げます。

奨学金授与のお話を頂いたときには、大変驚きましたが、今までの自分の努力が報われたかのように感じられました。これもひとえに、ご支援とご指導を賜った全ての方々のおかげです。

頂いた奨学金は、今後の研究のために研究会参加の費用などに使わせて頂きたいと思います。今後も皆さまへの感謝の気持ちを忘れることなく、より一層研究に励んでいきたいと考えております。

この度は本当にありがとうございました。



◆学校教育専攻 学校教育専修（釧路校） 2年 山内 拓也

この度は、奨学金を授与していただきありがとうございます。

将来は、障がいの有無にかかわらず、誰もが住みやすい地域づくりに貢献していくのが私の夢です。その夢に向けて、大学院では、特別支援教育を中心に研究しております。授与していただいた奨学金は、そのための参考文献やフィールドワークなどの研究費として、自分自身に磨きをかけるために大切にに使わせていただきたいと考えております。大学での生活も残りわずかとなりました。最後まで、悔いの残らないよう全力で、日々の研究により一層励んでまいります。

最後になりますが、この度は本当にありがとうございました。

◆教科教育専攻 英語教育専修（函館校） 2年 穴田 晃一

この度は、北海道教育大学基金より奨学金を授与していただき、誠にありがとうございました。

今回の奨学金授与に関するお話をいただいたときは、感謝と喜びの気持ちが湧いてきました。皆様からいただいたご寄付を、今後の研究や教育現場での活動にしっかりと役に立てていきたいと思っております。感謝の気持ちを忘れずに、今後さらに精力的に活動し、様々なことに貢献していきたいと考えています。

この度は、本当にありがとうございました。



◆学校臨床心理専攻 学校臨床心理専修（釧路校） 2年 高橋 楓

この度は、北海道教育大学基金育英事業奨学生として、奨学金を授与して頂き、心より感謝申し上げます。奨学授与のお話を頂いた際はとても驚きましたが、大学院での学びが評価されたことに嬉しく思うと同時に、今までよりもさらに精進していきたいと感じました。

ご支援いただいた皆様への感謝を忘れず、子どもたちのためになるような研究を進めていきたいと考えています。

重ねて、この度は本当にありがとうございました。



（単位：人）

区 分		札幌校 札幌・岩見沢校	旭川校	釧路校	函館校	岩見沢校	計
平成19年度	大学院生	7	5	3	3	—	18
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	13	11	9	9	6	48
平成20年度	大学院生	32	15	13	4	—	64
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	38	21	19	10	6	94
平成21年度	大学院生	42	25	16	5	—	88
	学部学生	6	6	6	6	6	30
	（計）	48	31	22	11	6	118
平成22年度	大学院生	36	16	12	5	—	69
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	19	15	8	3	84
平成23年度	大学院生	36	11	10	3	—	60
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	39	14	13	6	3	75
平成24年度	大学院生	33	16	8	4	—	61
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	36	19	11	7	3	76
平成25年度	大学院生	20	8	7	2	—	37
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	23	11	10	5	3	52
平成26年度	大学院生	3			2	—	5
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	6	3	3	5	3	20
平成27年度	大学院生	2		4		—	6
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	5	3	7	3	3	21
平成28年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成29年度	大学院生	5	3	1	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	6	4	4	3	25
平成30年度	大学院生	5	2	2	1	—	10
	学部学生	3	3	3	3	3	15
	（計）	8	5	5	4	3	25
計		271	149	122	76	45	663

## 5

## 寄附者のご紹介

北海道教育大学基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、寄附講座開催や修学環境整備等への支援を行っております。

ここに、そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいているの方々のご芳名とご寄附額をご紹介します。

## ■寄附者ご芳名

※平成30年4月～平成31年3月までにご寄附をいただいた方々を掲載しております。

## 企業、法人、団体等（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

## 10万円以上

岩田地崎建設株式会社 様	AUTO×AUTO 様
協同出版株式会社 様	株式会社こやの 様
五稜郭タワー株式会社 様	一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会 様
空知リゾートシティ株式会社 様	株式会社Flair Consulting 様
一般社団法人 北師同窓会 様	北海道教育大学旭川校後援会 様
北海道教育大学釧路校後援会 様	北海道教育大学函館校尚学会 様
北海道教育大学青陵会 様	北海道教育大学生生活協同組合 様

※五十音順

## 10万円未満

旭川電気軌道株式会社 様	株式会社石田文具 様
株式会社五島軒 様	株式会社近藤商会 様
有限会社三和印刷 様	白鳥建設株式会社 様
大明工業株式会社 様	株式会社高橋組 様
トミヤ商事株式会社 様	函館駅二商業協同組合 様
函館商工信用組合 様	株式会社北洋銀行函館中央支店 様
みぞぐち事業株式会社 様	

※五十音順

## 企業、法人、団体等（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた企業、法人、団体等）

株式会社アストロ 様	株式会社大竹商店 様
有限会社河村工業 様	株式会社正文舎 様
株式会社ソディックLED 様	株式会社白亜ダイシン 様
株式会社はこせき 様	株式会社北海道アルバイト情報社 様
北海道教育大学旭川校 平成元年卒 元気会 様	丸善雄松堂株式会社 様
株式会社森川組 様	山田総合設計株式会社 様

※五十音順

個人（ご芳名とご寄附額の掲載についてご承諾いただいた個人）

10万円以上

柿沼 博彦 様	菊地 圭 様	小泉洋二郎 様	(故)柴田 學 様 (妻)柴田とし子 様	蛇穴 治夫 様	広瀬 るみ 様
---------	--------	---------	-------------------------	---------	---------

※五十音順

10万円未満

阿部 直保 様	五十嵐靖夫 様	石和 進治 様	伊藤 皓嗣 様	大泉 堅治 様	大島 章司 様
沖口 廣久 様	加藤 節子 様	菊池 和枝 様	北守 昭文 様	清野 きみ 様	久保 良宏 様
小橋ひとみ 様	小林 佳之 様	駒井 正弘 様	今野 文夫 様	斎藤 祥子 様	齋藤 啓代 様
佐々 祐之 様	佐藤 康幸 様	佐藤 聖士 様	鹿内 進 様	志手 典之 様	諏方 幸紀 様
瀬川 秀良 様	高階 玲治 様	高橋 進 様	高橋 秀行 様	武内 貴宏 様	竹内美恵子 様
谷内 静子 様	谷澤 正彦 様	玉井 康之 様	東海林明雄 様	長坂 好男 様	中島 千吉 様
中山 恵子 様	中山 雅雄 様	野村 卓 様	橋本 忠和 様	林 耕司 様	早藤 明男 様
引地 秀美 様	樋口忠次郎 様	樋口 英子 様	星野 良 様	本庄 十喜 様	前田 克彦 様
松田 順子 様	松田 教男 様	松並 和重 様	松橋 達美 様	松本 康男 様	三木 英樹 様
水上 丈実 様	宗像 修一 様	村山 憲司 様	森野 憲仁 様	安川 禎亮 様	山岡 邦彦 様
山口 文章 様	山本 忠雄 様	油谷 栄次 様	米本 智 様		

※五十音順

個人（ご芳名のみ掲載についてご承諾いただいた個人）

青木 昌雄 様	渥美 伸彦 様	阿部 公樹 様	阿部 博光 様	石川 公浩 様	井上 松博 様
今井 宏 様	植木 克美 様	奥田 知靖 様	落合 雄市 様	海鋒 達也 様	柿崎 則彦 様
可児まゆみ 様	金見 修司 様	國嶋 和禎 様	熊谷 武治 様	小出 高義 様	小島 容子 様
後藤 泰宏 様	後藤 嘉也 様	小林 徹也 様	今野 英明 様	酒井多加志 様	佐々木国博 様
佐藤 良樹 様	佐藤 昌彦 様	島澤 正弘 様	庄井 良信 様	高橋 教一 様	戸坂 隆 様
中島 太郎 様	中西 良子 様	成田 憲隆 様	南部 正人 様	根本亜矢子 様	松橋 智子 様
三橋 純予 様	八重樫良二 様	山形 積治 様	山本 理人 様	横山 吉樹 様	吉松 純昭 様
龍島 秀広 様					

※五十音順

### ■ 札幌校学生が「ワクワク無農薬クッキング」を開催

平成30年9月22日（土）、札幌校の調理実習室において、環境をテーマとしたイベント「ワクワク無農薬クッキング」を開催し、小学生7名が参加しました。

このイベントは、学生の自主的、創造的な教育研究活動を支援することを目的とした事業「hue学生プロジェクト」に採択された、札幌校学生によるプロジェクトチーム「北海道盛り上げ隊」が企画・実施したものです。

イベントの前半は、プロジェクトメンバーである札幌校学生5名から、無農薬野菜について発表を行いました。一般的な農業と無農薬農業の環境面における違いの説明や、産地別のトマトの食べ比べなどを行い、



プロジェクトメンバーの学生と参加者

無農薬野菜が私たちだけでなく環境にも優しいことを伝えました。参加者の中にはメモを取るなど熱心に話を聞く様子が伺えました。

後半は、無農薬野菜を使用したピザとカボチャもちづくりを行いました。今回使った材料の多くはプロジェクトメンバーが訪問した無農薬農家から提供していただいたものです。

参加者アンケートでは、無農薬野菜について興味を持ったこと

や、自宅で無農薬野菜を使用した料理を作りたいなど、多くの方から回答があり、無農薬野菜について理解を深めるとともに、おいさを伝える貴重な機会となりました。



調理の様子

### ■ 函館校学生が「HAKODATEアカデミックリンク2018」に出展し、審査員特別賞を受賞

平成30年11月10日（土）、函館アリーナにおいて、キャンパス・コンソーシアム函館（CCH）主催の合同研究発表会「HAKODATEアカデミックリンク2018」が開催されました。

HAKODATEアカデミックリンクとは、函館市内8高等教育機関の学生が一堂に会し、普段研究している内容や成果などをポスター展示や実演などによって発表し合う合同研究発表会で、毎年行われています。発表内容は、北海道渡島総合振興局や函館市役所をはじめとした、経済界、行政、教育関係者などによって厳正に審査され、優秀な発表をしたチームには賞が与えられます。

今年度は62の展示ブースと8つのステージ発表が行われ、函館校から出展した10チームのうち、以下3チームの研究成果が優秀と認められ、審査員特別賞を受賞しました。

- 発表題目（チーム名） 『なろうよ江差っ子—総合戦略から見るまちの未来—』（古地ゼミ3期生）
- 『スズメの盗蜜の定量化：盗蜜は五稜郭公園の花見観光に影響するのか？』（スズメの盗蜜、語り隊!）
- 『ジェンダーに関する教育が浸透していくための教員を取り巻く現状と課題』（きむレンジャー2018）



参加学生による記念撮影

### ■ 釧路校でへき地・小規模校教育推進フォーラムを開催

平成30年11月17日（土）、釧路校でへき地・小規模校教育推進フォーラム「地方の教師教育と関係機関の連携による戦略的教員養成」を開催し、大学、教育委員会、小・中学校教諭など教育関係者を含め、130名超が参加しました。

本フォーラムは、全国的な少子化が進んでいる中で生じている「地域に定着できる人材およびへき地・小規模校教育の指導力を有した教師の教育」、「教育委員会と大学が連携した教師教育のための研修システムの構築」という2つの課題を取りあげ、地方での新たな人材養成の役割と可能性をとらえていくことを目的として開催したものです。

当日は、柳澤 好治文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長から「地方の人材養成政策と教員養成大学の戦略的課題」と題して基調講演をいただき、教員、学校現場、教員養成大学がそれぞれ抱える課題とそ



基調講演の様子

の対応策が提示されました。

次にシンポジウムがあり、パネリストの北村 善春北海道立教育研究所長、柿崎 秀顕全国へき地教育研究連盟会長、川前あゆみ本学へき地・小規模校教育研究センター副センター長から、今後の人材養成とへき地・小規模校教育の可能性について事例報告が行われました。

続く全体討議では、参加者との活発な質疑応答が行われ、今後のへき地・小規模校教育の発展へ向けた課題解決等について討議が進められました。

参加者から、「へき地・小規模校だからこそできることがあり、

市街地の学校にも役立つと感じた。」「本フォーラムでへき地校が持つ強みを知り、マイナスをプラスに変えていきたい。」など感想が寄せられ、盛会のうちに終了しました。



会場の様子



## ■ 北海道教育大学基金へご支援いただいた柴田様に感謝状を贈呈

平成31年1月17日（木）、本学基金修学支援事業に多大なご支援をいただいた柴田とし子様（静岡県伊東市在住）を訪問し、蛇穴学長から感謝状を贈呈しました。

平成30年12月、柴田とし子様から、経済的に苦労している学生を支援したいとの申し出があり、1,500万円のご寄附をいただきました。寄附申し出の際には、柴田とし子様の夫であり、北海道札幌師範学校（現本学札幌校）を卒業された（故）柴田學氏のご遺志でもあるとお話を伺い、その篤志に対し深い感謝の意を表することとしました。

學氏は、北海道札幌師範学校を昭和11年に卒業し、小樽の小学校に奉職、その後、当時の三菱美唄炭鉱に転職し、その後三菱セメント(株)でご活躍されました。一方で、學氏はお忙しい仕事の傍ら親戚の子どもたちの勉強をサポートし、国立大学に入学

させるなど教育に大変熱心であり、それは退職後も続けられました。また、生前から教員養成大学である母校学生を支援したいとの思いを話されていたとのことでした。柴田とし子様は、學氏が亡くなられた後も、學氏が考えていた本学学生に対する支援を思い、その遺志を引き継ぎ、まわりの方々のサポートもあって、今回本学基金への寄附を実現できたことを大変喜ばれていました。

蛇穴学長からは、これからの日本において教育の充実は大変重要であり、それを担う教員を目指す学生への支援は大変有り難く思うとともに、基金からの奨学金授与者にはお二人の思いを伝えたいと述べました。

最後に本学基金修学支援事業へのご寄附に対しあらためて感謝の意を述べ、感謝状の贈呈を終えました。



柴田とし子様（右）、蛇穴学長



（故）柴田 學氏

## ■ 附属図書館旭川館で「体験!プログラミング教育」を開催

平成31年1月24日（木）、附属図書館旭川館のラーニングコモンズにおいて、山中 謙司准教授による「体験!プログラミング教育」を開催し、学生17名、教員2名の計19名が参加しました。

始めに山中准教授から現在のプログラミング教育についての説明があり、その後実際に教育現場で使われているLEGO教材を使用した小学校理科6年の「電気の利用」について模擬授業

を行いました。

受講者の中には4月から教壇に立つ学生もいて、「実際の教材を使って体験しながら学べた点が良かった」「新しい教育の内容にとっても興味が持てた」などの感想が寄せられ、教師になる際の参考になったようです。

附属図書館旭川館では、今後も学生の皆さんに役立つ講座を企画していきたいと考えています。



山中准教授による講義の様子



実際の教材を使って体験する様子

## ■ 岩見沢校スポーツ教育学研究室が子どもを対象にしたスキー教室を開催

平成31年1月24日（木）及び1月31日（木）に、岩見沢校スポーツ文化専攻スポーツ・コーチング科学コーススポーツ教育学研究室が地域スポーツクラブ Sports Life Design lwamizawaと協力し、岩見沢キャンパスの中庭で、子どもを対象にしたスキー教室を行いました。

この活動は、学生が中心となり企画したもので、大学キャンパスを活用した子どもの雪遊び環境づくりの実証実験を目的としており、教職員も学生と一緒に中庭の会場づくりに協力しました。2日間で合計約50名



会場の様子

の子どもがイベントに参加し、スポーツ教育学研究室の学生の指導・補助のもとで、特別に作られた初級～上級の3つのコースで、スキーやスノーライダーといったアクティビティを体験しました。

学生は、深雪の中での準備の難しさに課題を感じる一方で、会場の安全対策や子どもへの指導経験等の収穫を感じたようです。スポーツ教育学研究室では、今回の内容を踏まえて、次年度に地域の方を対象とした冬のスポーツイベントを企画する予定です。



イベントの様子

## ■ 釧路校学生が浦幌町しゃっこいフェスにお手伝いとして参加

平成31年1月27日（日）、浦幌町で「しゃっこいフェス」が開催され、釧路校地域文化研究室の学生9名と交換留学生として釧路校に在籍中の琉球大学生1名、あわせて10名が参加し、イベントの企画や会場設営、当日ボランティアとして運営をお手伝いさせていただきました。

浦幌町では子どもたちに地域に対する愛着を育んでいこうと、全町をあげて「うらほろスタイル教育」に取り組んでいます。

「しゃっこいフェス」は、その一環として地元中学生から提案された冬のイベントを地域の大人たちの手で実現したものです。

参加学生らが半年間準備を重ねたイベント企画では、「日本の果てま



釧路校学生の販売

でイッテ食う?」と題して、参加した釧路校学生の出身である岩手県名物「ひつつみ」と、琉大生直伝の沖縄名物「サーターアンダギー」を販売しました。

当日は天候にも恵まれ、用意していた各100食が完売した他、様々な企画も盛り上がりを見せ、子どもたちの笑顔あふれるイベントとなりました。

「しゃっこいフェス」終了後には反省会を兼ねた親睦会が行われ、実行委員の方々との



イベントの様子

のお話を通して、イベントに対する熱意や地域の子どもの笑顔のために活動する大人たちの想いを知ることができ、とても充実した時間となりました。

## ■ 命の教育シンポジウム2019 —SOSの出し方・気づき方—を開催

平成31年3月6日（水）、札幌市男女共同参画センターにおいて「命の教育シンポジウム2019 —SOSの出し方・気づき方—」を開催し、教員や学校カウンセラーなど83名が参加しました。本シンポジウムは、本学教職大学院が自殺総合対策推進センターと連携して行っている自殺総合対策の一環として開催したものです。

はじめに、阿部修教育担当理事の挨拶の後、井門正美教職大学院長が趣旨説明を行いました。続いて、川俣智路准教授から共有体験を得るための教材を使った授業実践例の報告、安川禎亮教授から「SOSの気づき方とストレスマネジメント」と題した講演がありました。



次に、「学校と教師は、子どもや若者に対する命の教育にどう取り組みればよいのか」をテーマとしたシンポジウムでは、北海道教育委員会義務教育課指導主事荒瀬匡宗氏、札幌市教育委員会児童生徒担当係長津田政明氏から公立学校における自殺予防教育の取組、稲葉浩一准教授からいじめ自殺報道の問題提起等の発表がありました。

最後に、自殺総合対策推進センター長本橋豊氏から「子ども・若者に対する生きることへの包括的支援—その最前線—」と題した講演があり、いずれの講演、シンポジウムともに活発な意見交換が行われ、盛況のうちに終了しました。





## お知らせ

### ■キャンパス活性化リノベーション事業を創設しました。

北海道教育大学では、新時代の幕開けとなった令和元年に、本学が70周年を迎えることを契機に、キャンパス独自の取組の活性化とリノベーション（再生・刷新・創造）実現を目的とする『キャンパス活性化リノベーション事業』を創設しました。

『キャンパス活性化リノベーション事業』は、「学生の声」や『学生を思う教職員の思い』を事業計画としてホームページに公表いたします。教育現場を「見える化」することで、開かれた大学を目指すとともに、皆様の【共感】を糧として、魅力ある「活きた」キャンパスへと再生・創造します。

『キャンパス活性化リノベーション事業』では、皆様から【共感】をキーワードとして寄附を募り、本学の予算と合わせて事業を実施します。



### 【札幌校「レストルーム整備事業」】

「レスト (Rest)」=「休息」をコンセプトとした、魅力ある新たな空間整備

老朽化したトイレを、快適な空間「レストルーム」に再生することで、「在学生」にとってより良い修学環境を提供するだけでなく、本校の「志願者」に対し、その思いを後押しできるような、魅力あるキャンパスを創造します。

#### 目標額達成!!

皆様からのご寄附により、目標額を達成することができました。今後、事業計画に基づきご支援いただきました寄附金を活用させていただきます。（令和元年6月11日現在）



※現在、各キャンパス及び附属学校園では各種事業を計画しております。  
新たな事業計画や実施した事業結果などは随時ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。

### ■ クレジットカード決済によるご寄附について ■

北海道教育大学基金のWebサイトからお申込みいただけます。  
詳細はWebサイトをご覧ください。（スマートフォンからのお申込みもできます）

北海道教育大学基金 [検索](#)



### ■ 北教大古本募金について ■

皆様が読み終えた書籍等を提供いただくと、その買取金額が「北海道教育大学基金」に寄附され、育英事業等に役立てられます。ホームページからのお申し込みに加え、各キャンパスに回収ボックスも設置しております。不要となった書籍、CD、DVDなどのご寄附をお待ちしております。

北教大古本募金 [検索](#)

### ■寄附者のご芳名の掲載について

ご寄附をいただいた方々への感謝の意を込めまして、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。また、高額のご寄附をいただいた方々につきましては、本学ホームページ上のWeb寄附者銘板にご芳名を刻み、未永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載の削除を希望される場合は、その旨ご連絡くださいますようお願いいたします。

※本学の本部事務局内に設置しております寄附者銘板へのご芳名の掲載につきましては、平成28年11月までのご寄附をもって追加の掲載を終了させていただきました。なお、これまでにご寄附された方々のご芳名を掲載した寄附者銘板については、引き続き設置しております。

### ■贈呈品について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学関連の贈呈品を差し上げております。



ホタテ箸



藍染ハンカチ

### ■定期演奏会等への御招待について

一定額以上のご寄附をいただいた方々に、北海道教育大学が実施するイベント（定期演奏会など）に御招待します。

### ■税額控除制度の導入について

租税特別措置法の一部改正により、国立大学等が実施する修学支援事業に充てられる個人からの寄附にかかる所得税の税額控除制度が導入されました。

北海道教育大学基金の修学支援事業へのご寄附は税額控除の対象となりますので、確定申告の際に寄附者様において、所得控除又は税額控除のいずれかを選択することができます。

$$\left( \begin{array}{c} \text{所得金額} \\ \text{(年収)} \end{array} - \begin{array}{c} \text{諸控除} \\ \text{(扶養控除等)} \end{array} \right) \times \begin{array}{l} \text{(税率)} \\ 5\% \\ 10\% \\ 20\% \\ 23\% \\ 33\% \\ 40\% \\ 45\% \end{array} = \begin{array}{c} \text{所得税額} \\ \text{(寄附金-2,000円) \times 40\% を控除} \end{array}$$

寄附金のうち、2,000円を超える額の40%が所得税から控除されます。その金額の所得税が還付されます。  
※所得税額の25%が限度です。

《例：年収500万円の寄附者が1万円寄附した場合》

○税額控除の例：税率に関わりなく、8,000円×40%=3,200円

○所得控除の例：(10,000円-2,000円=8,000円) × (税率10%(平均的な世帯の諸控除額を想定)) = 800円

国立大学協会資料から一部転用

### 【お問い合わせ先】

北海道教育大学基金事務局

〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

北海道教育大学総務部総務課内

TEL:011-778-0206,0915 FAX:011-778-0631

E-mail:s-somu@j.hokkyodai.ac.jp

<https://www.hokkyodai.ac.jp/fund/>

2019.8発行